

おぢや

市議会だより



NO. 85

29.7.25

編集発行
小千谷市議会
☎83-3505

OJIYA CITY ASSEMBLY



片貝巫女爺子供教室

子ども達に「巫女爺」の演奏を体験してもらうことを目的として、平成20年に発足し今年で10年目を迎えました。

今年は、片貝小学校4年生・5年生・6年生の10名で活動し、唄や篠笛、太鼓、そして人形操作の技を磨いています。

講師は片貝町伝統芸能保存会の皆さんで、巫女爺を通し世代を超えた交流の場となっております。

- 第1回臨時会議決結果 …… P2
- 第2回定例会議決結果 …… P2
- 常任委員会報告 …… P3
- 一般質問 …… P4~7
- 議会日誌 …… P8
- 雪あかり、編集後記 …… P8

—主な掲載内容—

平成29年小千谷市議会
第1回臨時会
議決結果

5月10日に開催され、専決処分の承認と正副議長を選出し、各委員会等の新しい構成を決定いたしました。

専決処分

- 専決処分 小千谷市税条例の一部改正 (全会一致)
- 専決処分 小千谷市国民健康保険条例の一部改正 (全会一致)
- 専決処分 平成28年度小千谷市一般会計補正予算(第5号) (全会一致)

議会構成等の決定

- ▽議長 田中 淳
- ▽副議長 山賀 一雄
- ▽総務文教委員会
- 久保田陽一
- 上村 行雄
- 大矢 弘光 佐藤 栄作
- 内山 博志 長谷川有理
- 山賀 一雄 田中 淳

▽民生産業委員会

- ◎阿部 正行
- 住安 康一
- 森本恵理子 駒井 和彦
- 佐藤 隆一 本田 剛
- 久保田久栄 風間 順一

▽議会運営委員会

- ◎本田 剛
- 内山 博志

- 森本恵理子 住安 康一
- 阿部 正行 久保田陽一
- 久保田久栄 風間 順一
- (◎委員長、○副委員長)

▽魚沼地域特別養護老人ホーム

- 組合議会議員 山賀 一雄
- ▽新潟県後期高齢者医療広域連合議会議員 阿部 正行

その他

- 小千谷市監査委員(久保田久栄)の同意 (全員賛成)

議員永年表彰者

- 全国市議会議長会 議長4年表彰
- 10年表彰 田中 淳
- 10年表彰 山賀 一雄
- 北信越市議会議長会 田中 淳
- 10年表彰 山賀 一雄
- 山賀 一雄

第2回定例会 議決結果 (6月2日から6月23日まで開催)

議案番号等	議 件 名	議決状況	議決結果	
条 例	議案第34号	小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部改正	全会一致	原案可決
	議案第35号	小千谷市税条例の一部改正	〃	〃
	議案第36号	小千谷市都市計画税条例の一部改正	〃	〃
	議案第37号	小千谷市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部改正	〃	〃
予 算	議案第38号	平成29年度小千谷市一般会計補正予算(第1号)	〃	〃
	議案第39号	平成29年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	〃	〃
その他	議案第40号	契約の締結〔市民会館耐震化(建築主体)工事〕	〃	〃
	議案第41号	財産の取得〔消防ポンプ自動車〕	〃	〃
	議案第42号	財産の取得〔小形ロータリ除雪車〕	〃	〃
	議案第43号	小千谷市固定資産評価審査委員会委員の選任	〃	同 意
	議案第44号 ～第62号	小千谷市農業委員会委員の任命	〃	〃
発 議	発議案第3号	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書	全会一致	原案可決
請 願	請願第3号	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願	みなし	採 択

※議決状況の「みなし」は、その請願に対応した同趣旨の意見書の発議案が提出され、先に採決したので、その議決結果をもって採択または不採択されたものとみなします。

就任あいさつ



議長
田中 淳

議長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

このたびの議長選挙におきまして、議員各位のご支持をいただき、当選させて頂きました。

本年4月には厚生連小千谷総合病院が開院し、また小千谷市の魚である錦鯉が新潟県の鑑賞魚として指定され、世界に発信されるなど明るいニュースもありますが、当市を取り巻く環境は大変に厳しく、人口対策、両病院の跡地問題、茶郷川の改修等、解決しなければならぬ課題も山積しております。

私は基より浅学非才でありませんが、議会に対する市民の皆様への期待も大きなものと受け止め、誠心誠意、公正・公平を旨として円満で活発な議会運営を目指してまいります。議員各位、市民の皆様からのご鞭撻を賜りますことをお願いいたします。就任のご挨拶とさせていただきます。



副議長
山賀一雄

このたびの市議会臨時会におきまして、議員各位のご推挙により副議長に就任いたしました。副議長としての責務の重大さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

現在、人口減少問題を克服するために、国・地方自治体とも「地方創生」を重要課題として取り組んでおります。

当市は、「まち・ひと・しごと」を元気にする総合戦略に掲げる目標達成のための事業を展開しております。

私も議会としても、市民生活の安心と安全を確保するために、議会の活性化や権能強化等議会改革を図りながら、総合戦略に掲げる事業や諸課題解決に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

議員各位並びに市民の皆様から絶大なご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。就任のご挨拶といたします。

常任委員会報告

総務文教委員会

本委員会に付託されました議案4件について、3件は総務文教委員会単独で、1件は民生産業委員会との連合審査会で慎重に審査した結果、議案4件全てを原案の通り可決すべきものと決しました。また、請願1件も採択すべきものと決しました。

○議案第34号 小千谷市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、人事院規則の一部改正に伴い、育児休業の再取得や育児休業期間の再延長等を認める特別な事情を新たに加えるものです。

○議案第35号 小千谷市税条例の一部を改正する条例の制定について

○議案第36号 小千谷市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について

本2件は、地方税法及び航空機燃料譲与税法の一部を改正する法律の施行に伴い、関係する条文の改正及び所要の規定の整備を行うものです。

民生産業委員会

○議案第38号 平成29年度小千谷市一般会計補正予算(第1号)について

今回の補正は、平成28年度補正予算に計上した地方創生拠点整備交付金事業に係る平成29年度予算からの減額、地方創生推進交付金事業の交付決定に伴う対象事業の組替え計上など、歳入歳出それぞれ5321万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ173億3321万6千円とするものです。

○請願第3号 30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の採択を求める請願

本請願は、豊かな教育環境を整備するため、30人以下学級の実現と、教育の機会均等と水準維持・向上を図るため、義務教育費国庫負担制度の国負担割合を2分の1に還元することを求める意見書を国の関係機関に提出してもらいたいとするものです。

本委員会に付託されました議案2件について慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議案第37号 小千谷市重度心身障害者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、県の重度心身障害者医療費助成事業実施要領の一部改正により、精神障害者保健福祉手帳1級所持者が対象者に規定されたことに伴い、受給資格者に関する規定を改正するものです。

○議案第39号 平成29年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について

本案は、前期高齢者納付制度において、被用者保険者の負担増の緩和を図るため、保険者の支え合い負担を拡大したことにより、被保険者一人あたりの負担調整対象額が引き上げられたため、前期高齢者納付金の増額補正及び財源の充当替えを行い、歳入で基金繰入金を増額するものです。

市政の内容を聞く

一般質問

ピロリ菌検査・メカトロニクス系列他

森本恵理子 議員

胃がんリスク検査について

質問 導入の課題となっている内視鏡検査の体制整備について地元医師会との協議の進捗は。

答弁 胃がんリスク検査より対策型検診である胃がん検診を優先することから現状では難しい。ピロリ菌検査導入について

質問 ピロリ菌は確実な発がん因子であり、人口の約半分が感染していると言われる。理論上の数値であるが当市に千五百人近い胃がんの方がいることにな

り、年間8〜15人の方が亡くなっている。人口減少問題の解決策の一つとしてもピロリ菌検査を導入するべきと考えるが見解を伺う。

答弁 当市では受診者全員に血液検査を行う特定検診において30歳代を対象として実施する方法が受診率向上にもつながり、40歳代から受けられる胃がん検診への動機づけにもなり効果があると考える。今後、実施について検討していく。

質問 胃がん発生の高い予防効果が得られる学校検診におけるピロリ菌検査導入について見解を伺う。

答弁 現段階での導入は考えていないが、今後実施自治体からの情報を得た上で研究していく。メカトロニクス系列について

質問 鉄工電子産業を中心とした製造業が求める人材確保、地元就労の機会が増えることを期待してスタートした。今春、初の卒業生を輩出したが、今後進学した生徒等どのように働きかけていくのか伺う。

答弁 卒業生は鉄工電子を中心に就職しており、設置の目的はほぼ達成した。進学者に対してはも今後継続して働きかけていく。

公共施設の整備・維持管理について

大矢 弘光 議員

質問 公共施設の集中や再編、廃棄の必要性についての見解を。

答弁 健全財政の維持、市民サービスを提供し続けるためには、本市全域及び地域別の人口推移のほか、施設の利用状況経年劣化の状況等も踏まえ、他用途の公共施設との複合化や集約化、廃止、転用や売却の選択により、適正な施設の再配置及び施設数、施設規模とすべきと考える。

質問 公共施設（道路・橋梁等含む）の整備事業を支える建設業界に対する現状把握と振興策はどのように考えているか。

答弁 施設の施工管理や高度な土木技術を継承すべき技術者の不足は、建設業界全体の課題であり、当市などの豪雪地における除雪体制の維持においても、不安要素となるものである。公共施設等の維持管理費用に加え、施設の大規模改修や道路等の建設改良などに要する公共投資は、建設業経営の安定化の一助になるものと考えている。複数分野での事業展開などを積極的に検討いただく必要もあり、国・県と連

携し支援していきたいと考える。
質問 公共施設の整備・維持管理に関する小千谷市の財政見通しについて。

答弁 身の丈での公共施設等の保有を基本として、適正な施設の再配置及び施設数としていくものであれば、新たに必要な施設整備が可能と考える。なお新たな施設整備においては、今までの公共工事手法のイメージではなく、PPP（公民連携）またはPFI（民間資本活用）による公共施設整備やサービスの提供）などの手法により推進する必要があると考える。

農業振興の展開と連携について

上村 行雄 議員



するため法改正が行われた。課題解消に期待している。

質問 当市の鉄工電子業界との技術的な交流や関わりについて。

答弁 小千谷産学交流研究会を立ち上げ、毎年情報交換と異業種交流会などの活動を通して可能性を模索している。今後は農業関係団体からも積極的に参加するよう促すとともに、商工会議所とも連携し、工業技術が農業発展に貢献できる道を探っていく。

質問 造成予定の工業団地への農業関連施設等の企業誘致について。

答弁 中越3市産業活性化基本計画に基づき実施している。地元農産物の活用や地元の人を雇用していただけるような農産物加工や食品製造業など農業振興が期待される業種も視野に入れ、企業誘致に向け企業立地活動を図っていく。

質問 農業発展のための連携と成長産業としての可能性について。

答弁 農業には多くの組織が関わり重要な役割を担っている。JAなどの組合は、組合員の利益のため活動を行っている。行政は様々な組織の関わりを結び

質問 小千谷市農業委員会の課題と期待できるところは何か。

答弁 課題は、担い手への農地集積促進、遊休農地の解消、担い手不足。これらの課題を解決

付け、調整役を担い、全体的な計画を策定し、農家や関係団体の意向に沿って進めている。今後それぞれの組織が役割を果たし、協力・連携しながら農業の未来を描き、地域の実状と意向を的確に捉え、農業振興を図っていく。



当市の総合戦略について

駒井 和彦 議員

質問 総合戦略について市長の率直な平成27年度及び28年度評価等について。

答弁 平成27年度の審議会では目標値が低かった等の意見があった。28年度は現在取りまとめ中。

戦略の見直し等は必要性により検討し、それが見直しのタイミングと考える。

質問 総合戦略に、市民の自治意識の「自覚と醸成」の項目を追加する考えはないか。

答弁 現在の事業を重点的に推進する。現時点ではない。

質問 錦鯉を巡る諸々の動きを踏まえた今後の事業展開は。

答弁 今年度、錦鯉いっぱいプロジェクト等、地域全体で錦鯉発祥の地おぢやをPRしていく。

質問 錦鯉のブランド戦略について。

答弁 多くの方々からその魅力を分かち合おうための展示物のリニューアルやイベントの開催などの誘客を図っていく。

質問 第2分庁舎は単なる事務所として活用していくのか。

答弁 ビジターセンターとしては考えていない。施設看板や案内表示板の設置を検討する。

質問 訪日客を取り込むために、官民連携の新たな戦略はあるか。

答弁 広域観光周遊ルート形成事業に参画し、大きなスケールメリットを活かしながら、誘客促進に取り組んでいく。

質問 ふるさと納税に関する感謝イベント等の取組は。

答弁 現時点では考えていない。従来ふるさと納税で対応する。

質問 Uターン等就職関連セミナーに人を集めるための有効策について。

答弁 提案も参考にしながら、専門業者も活用するなど、参加者増に向けて検討を重ねていく。



原子力防災訓練の検証について他

佐藤 隆一 議員

質問 3月12日に行なわれた、原子力防災訓練の概要は。

答弁 原子力規制事務所、新潟県（テレビ会議で参加）、小千谷市と関係機関、土川防炎会などから86名が参加し、屋内退避訓練や自力で避難が難しい人の広域避難訓練などを行いました。

質問 訓練の結果と反省は。

答弁 メール登録者4000名のうち、240名から屋内避難

したと回答。避難行動要支援者の容態等により避難支援方法が多岐にわたるため、検討が必要。

質問 訓練の実効性をどのように高めていくのでしょうか。

回答 自力で避難できない人への細かな対応や、広域避難訓練時の経由所の場所や、方法などについてより具体化し、県との合同訓練として実施したい。

質問 実効性を高めるには、自主防災会独自の細かな継続した実施が大切ではないでしょうか。

答弁 昨年33団体が実施しており、活動を支援していきたい。

質問 原発事故で市内に避難している人の実情把握は。

答弁 保健師が定期訪問しています。新潟県の実施するアンケート結果を見守りたい。

質問 新小千谷総合病院の現状と要望の強い病児・病後児保育について。

答弁 順調にスタートしたと伺っている。病児・病後児保育事業は市内の公的施設で事業実施の検討を行っている。

質問 昨年12月に成立した、「部落差別解消推進法」に対する小千谷市の対応は。

答弁 全国部落調査復刻版は、差別の解消にとって妨げとなり

ます。来年度策定の「小千谷市人権教育・啓発推進計画」に、具体的な施策を反映させたい。



新小千谷総合病院

新病院の市民満足度向上と病院跡地活用

長谷川有理 議員

市民の更なる満足度向上へ

質問 整形外科、小児科、泌尿器科の医師充足率向上を。特に子育て支援の面でも小児科2診体制に市として支援するべき。

答弁 特定の科でなく、全体的に要請している。

日や月曜の2診体制確立を。

答弁 要請していきたい。

質問 新病院の病床稼働率は。

答弁 5月末で67%。

質問 個人病院の混雑と新病院との地域連携の在り方は。

答弁 整形外科は医師不足。新病院医師が手術中や不在の場合、救急患者を開業医に搬送する事があることは従来通り。

質問 新病院はジェネリック非対応。市としての働きかけを。

答弁 院外処方での対応とのこと。利用拡大を要請していく。

質問 病児・病後児保育を。

答弁 新病院での設置はない。市内の公的施設で事業実施検討。

市民の夢溢れる跡地活用を

質問 旧小千谷病院の贈与財産内訳・解体時期と費用公開を。

答弁 清算事務が確定次第公開。解体時期は平成31年着手を旨し解体期間は一年以上。

質問 跡地利用が遅れているのは地権者との交渉が原因では。

答弁 旧病院の借地部分は買い取りも考え、交渉している。

質問 両跡地建物のアスベストの使用の実態把握はしているか。

答弁 旧小千谷病院施設は除去せずに隔離したと報告あり。旧魚沼病院施設は市の調査はない。

質問 公共施設との役割分担は。

答弁 魚沼病院施設等を6月16日に厚生連側より無償譲渡したいとの要請あり。検討していく。



旧魚沼病院

国保税、経済格差と教育、給食センター

内山 博志 議員

質問 国保税の引き下げ、国への交付金増額の要望、滞納整理総合窓口について。

答弁 今後も県市長会を通じ国に交付金増を要望していく。基金残高が増加しているが予算編成のとき検討する。滞納者の生活再建は重要であり、税務課管理収納係が窓口になり、関係課と密に対応する。

また、生活困窮者自立支援担当で相談するよう促す。資格者証、短期保険証等の交付は、個々の実情に留意し行う。

質問 保護者等に寄り添い(就学援助) 入学準備金を小学校の入学時も中学校同様早く出せないか。就学援助の漏れを防ぐため全員から申請書を出してもらい該当するかどうか確認したらどうか。

教育長答弁 県内などの動向を見定めながら、現段階では現行通りとしたい。市内全学校の保護者に申請書の配布、ホームページ等で周知しており、申請の漏れはないと考えている。

質問 給食センターの調理、配送の民間委託については、大部分が賃金だ。民間委託で中間搾取が入り労働強化、低賃金が懸念される。市内の経済循環にも悪影響が出るのではないか。委託業者から契約額の引き上げが要望される懸念がある。事実そういところもあって民間委託をやめたところもある。関係者説明会ではどんな声があるか。

教育長答弁 業者は法令の順守や適正に業務遂行できるところを選定し、経済循環に悪影響が出るとは考えていない。契約額

引き上げ要望については内容が妥当か精査して対応する。検証も行う。食育、業者選定等多くの意見が出たが概ね理解を得た。

防災教育・障がい者スポーツについて

久保田陽一 議員

質問 現在の小千谷市の防災教育の考えと取組みとは。

教育長答弁 中越大震災により甚大な被害を受け、児童の尊い命も奪われたことから、防災教育は当市の児童生徒にとっては不可欠なものであり、かつ重要なものだと考えている。おぢやっ子教育プランに防災教育を位置付け、震災の経験を伝え、防災意識を持った子どもに育てるよう指導している。10月23日の中越大震災の日には防災給食を実施し、さらに平成28年度からは新潟県中越大震災復興基金を活用した、ふるさと新潟防災教育推進事業に取り組み、家庭や地域と連携して実践的かつ継続的な防災教育を行っている。

質問 市内全小中学校にてジュニア防災検定を行うべきでは。

教育長答弁 新潟県防災プログラムを活用した学習や、そなえ

館を利用した防災工作や災害食料体験、おぢやるるを会場にした防災キャンプなどを行っている。市内小中学校を対象に統一したジュニア防災検定の導入は考えていない。

質問 ハートフルスポーツフェスタの評価は。

教育長答弁 大変有意義な事業であると考えており、事業自体の評価は高いものと認識している。市も引き続き協力していく。

質問 市内小中学校で障がい者スポーツを取り入れるべきでは。

教育長答弁 小中学校の体育の授業で取り入れる予定はないが、支援学校との交流や障がい者への理解には重要であると考えている。支援学校との交流活動に取り組んでいる学校もあり、今後はスポーツも含め交流を推進し、障がい者への理解に繋げたい。



カロリング

農産品のブランド化・ヘルプカード他

住安 康一 議員

質問 JA越後おぢや・関連団体と連携し、地元農産品のブランド化推進が必要と考えるが。

答弁 兼業農家が約9割で水稲以外の園芸作物を手掛ける農家は、極めて限定的。長期的には水稲から園芸作物へシフトしていくことは望ましい姿なので、ブランド化を検討する。

質問 ヘルプカードは、支援や配慮を必要とする方が携帯し、何かあったときに周りの人に必要な支援や配慮をお願いするためのカードである。障がい者等の支援にヘルプカードの導入を積極的に進めるべきと考えるが。

答弁 検討すべき課題が多くあり、障がい者団体からの要望はない。今後の研究課題としたい。

質問 自治体の持つデータを積極的にオープンにすることにより、開かれた行政となり、ビジネス支援、地域経済の活性化が大いに期待できる。当市においてもオープンデータ化の取り組みを推進すべきと考えるが。

答弁 情報公開に対する需要と、費用対効果を勘案しながら検討。



質問 当市に日本で一番古い公立の小学校があるということを一つの武器にすべき。

答弁 北越戊辰戦争の歴史に関連した小千谷小学校の開校に関しては、ポランティアガイドや観光パンフレット等を通じ紹介し観光客にもアピールしたい。

質問 日本で一番古い公立の小学校があるということは、当市にとっての重要な宝であり、私たちの誇りでもある。行政として小学校と連携し、節目の150周年を盛り上げるべき。

教育長答弁 各種事業等を、「市報おぢや」やホームページに掲載するなど情報発信をする。

議会中継

市議会本会議は市ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。

本会議当日のライブ中継のほか、録画映像もご覧いただけます。

(録画映像は本会議終了後、通常、休日(土日・祝祭日等)を除く5日後から1年間ご覧いただけます。)

パソコンだけでなく、スマートフォン、タブレットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>

会議録の閲覧

市議会本会議の会議録(平成15年第1回定例会以降)は市ホームページからご覧いただけます。

パソコンだけでなく、スマートフォン、タブレットでもご覧いただけます。

(平成29年第2回定例会の会議録掲載は、8月末頃となります。)

一般質問等の詳細はこちらをご覧ください。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>



市議会を傍聴してみませんか

第3回定例会開催予定

- 9月4日(月) 第1日 議案上程説明
- 9月5日(火)～8日(金) 各常任委員会で審査
- 9月21日(木) 第2日 一般質問
- 9月22日(金) 予備日 一般質問(質問者が多い場合に開催)
- 9月26日(火) 最終日 委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については

議会事務局(TL83-3505)へお問い合わせください。

委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。

議会の日程は、市ホームページからご覧いただけます。

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp/>



〈4月〉

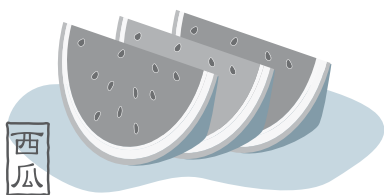
- 6日 議会報編集委員会
- 11日 議会運営委員会
- 12日 議会報編集委員会
- 20日 北信越市議会議長会定期総会（金沢市）
- 28日 会派代表者会議

〈5月〉

- 2日 議会運営委員会
- 8日 会派代表者会議
- 10日 第1回臨時市議会
- 18日 民生産業委員会
- 23日 議会報編集委員会
- 28日 民生産業委員会
- 30日 津南町議会行政視察に来

- 2日 第2回定例会（本会議）
- 6日 議会報編集委員会
- 5日 常任委員会連合審査会
- 6日 総務文教委員会
- 7日 民生産業委員会
- 20日 民生産業委員協議会
- 20日 議会運営委員会
- 21日 本会議（第2日）
- 21日 本会議（第3日）
- 23日 議会運営委員会
- 28日 本会議（第4日）
- 28日 議員協議会
- 28日 柏崎港整備・利用促進協議会通常総会（柏崎市）
- 30日 市

- 2日 第2回定例会（本会議）
- 議員全員協議会
- 議員クラブ会



67



藤田 幹夫 桂岩沢

今年もグランツール南二〇一七の開催が迫っている。市内唯一の集団サイクルイベントだ。二〇一〇年の夏に近隣市で開

催されたサイクルイベントに単独で参加し、自分の住んでいる地域とシチュエーションが合致した。小さな子どもからお年寄りまで、住民が沿道に出て大声援を送る。ぜひ自分も、大好きな自転車で地域を盛り上げたい！それがこのイベントの発端だ。当時の復興支援員さんや村おこし団体代表にも相談、「いいね、自転車で村おこし」市内で唯一の「いいことやる気満々だったの思い出す。それからどんどん仲間は増え続け、現在20名を超える。コース設定は岩沢駅発着で、南部地域、岩沢、川井、塩殿、真人の当然山間地も含み、

自ずと起伏の厳しい設定。これも特徴だが、各地域の村おこし団体等に働きかけ、各地域に各団体考案のエイドステーションも設置、現在大好評！このイベントのウリになっている。始めたばかりの頃は参加者30名足らず。しかし、自転車ブームとも相まって、今や250名。運営がきつい場面もあるが、全国から参加者があることや地域の方の笑顔を見ると続けたいと改めて思う。構える必要はない。自分の好きなことで仲間を集め、地域を一日でも元気に出来れば、その過程も含め地域活性化に繋がると信じる。

編集後記

第2回定例会市議会が6月2日から23日の22日間にわたって開催されました。市議会は、毎年3月、6月、9月、12月の4回開催されます。3月議会は新年度予算、9月議会は前年度の決算審議が行なわれ、活発な論戦が展開されます。市長から市議会初日に議案として出される、予算や決算、条例の提案は議場で行ないますが、実質的な審議は総務文教委員会と民生産業委員会の常任委員会で審議されま

す。また、予算などに関わる案件については、二つの常任委員会合同の連合審査会が庁舎4階の大会議室で開催されますので、こうした常任委員会での審議も大変重要な論戦の場となります。かつては、決算の審議は12月市議会で行なわれていましたが、社会制度の変化が格段に速くなり、現在、9月議会で審議されます。

市議会閉会後に開催される議会報編集委員会は、こうして審議され議決された論戦の内容を、わかりやすく市民に伝えることを役割としています。

市議会だよりの内容は年々変化を遂げています。社会制度の複雑化にもなっており、審議内容もますます多岐にわたっており、わかりやすく市民に伝えるのが大変重要となっております。読まれた感想など、意見をお寄せください。

- 編集委員長 佐藤 隆一
 - 副編集委員長 駒井 和彦
 - 編集委員 住安 康一
 - 編集委員 大矢 弘光
 - 編集委員 佐藤 栄作
 - 編集委員 内山 博志
 - 編集委員 久保田 陽一
- （編集委員は議席番号順）